

# 子宮頸がんの原因

# ヒトパピローマウイルス(HPV)検査を受けましょう

## 子宮頸がん と ヒトパピローマウイルス (HPV)

子宮頸がんは、主に性交渉により HPV に感染することで発症します。

近年、**1000人に1~2人**の割合で子宮頸がんになる人がいます。

HPV 感染者の子宮頸がん発症リスクは HPV 非感染者の **400倍以上**とされています\*。

\* 喫煙者の肺がん発症リスクは非喫煙者の4倍

HPV 感染から 5~10 年以上かけて、一部ががんへと移行します。



### 細胞診

子宮頸部から採取した細胞の「形」を顕微鏡で調べます。

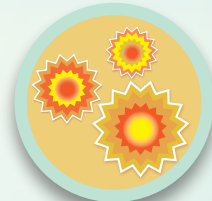
がんの発見率は高いですが、前がん病変の発見は**約30%の見逃し**があるとされています。



### HPV 検査

HPV 検査は、ウイルス感染の有無を判定します。

採取した細胞中の HPV の存在を直接調べるため非常に精度が高い検査です。



## 細胞診とHPV検査を併用するメリット

- ① **がんになる前(前がん病変)**の段階でほぼ**確実に**を見つけることができます。
- ② 前がん病変で見つけることができれば、**子宮を残して**治すことができます。
- ③ 将来がんになる**リスクも分かります**。

HPV 検査は世界中の子宮頸がん検診で行われており、日本産婦人科医会からも細胞診と HPV 検査を併用することが推奨されています。



細胞診と HPV 検査の両方が「陰性(-)」の場合、「子宮頸がん」および「前がん病変」になるリスクが低いので安心できます。  
《次の検診は3年後になります。》

HPV 検査はハイブリッドキャプチャー法を使用しています。

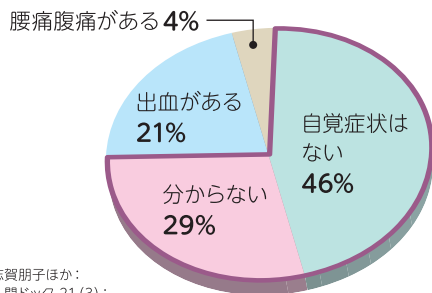
裏面「子宮頸がん」をもっと知っていただくためにもご覧ください。

# すべての年代の方へ

## 『子宮頸がん』をもっと知っていただくために

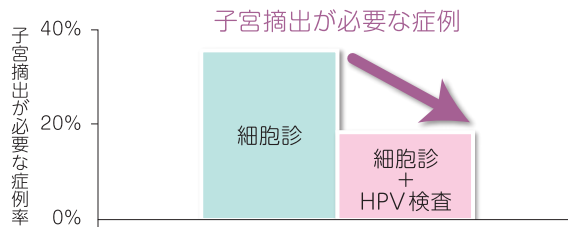


子宮頸がんになっても  
自覚症状はほとんどありません



志賀朋子ほか：  
人間ドック 21 (3)：  
704-707, 2006 より作図

HPV 検査を受け早期発見できた  
ことで子宮を摘出する人数が**半減**しました

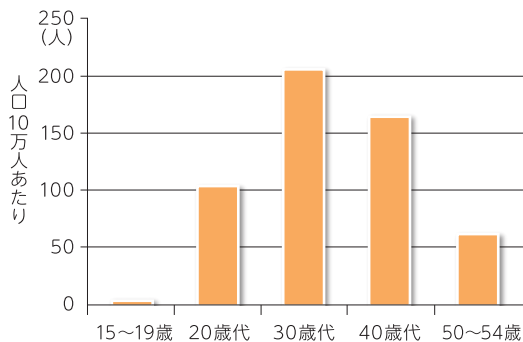


細胞診、HPV 検査両方陰性の場合  
子宮頸がんになるリスクは**きわめて低く**なります

岩成 治 第56回婦人科腫瘍学会(2014年)シンポジウム発表資料より作図

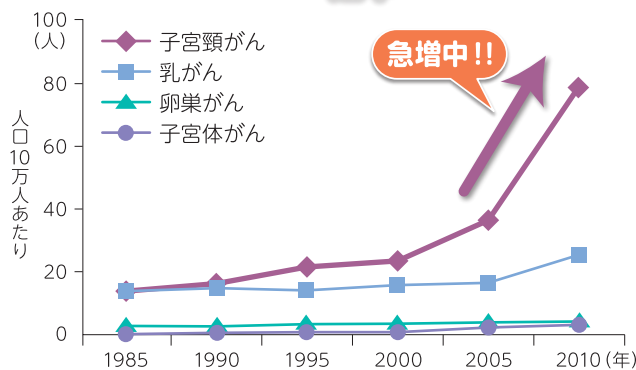
### 20~30代の方へ

30代の女性を中心に多発しています



国立がんセンターがん対策情報センター「人口動態統計によるがん死亡データ (1958年~2012年)」より作図

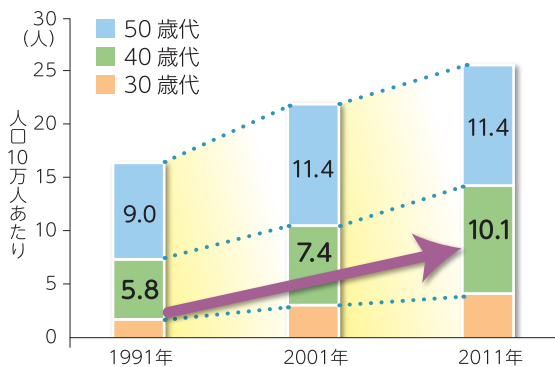
女性特有のがんで第1位、**近年急増**しています



早期発見できれば子宮を残して完治し、妊娠出産も望めます

### 40代の方へ

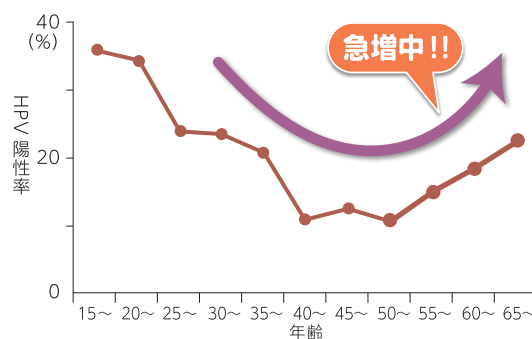
40代の女性の死亡率は**2倍**に増えています



国立がんセンター対策情報センター「地域がん登録全国推計によるがん死亡データ(1975年~2010年)」より作図

### 50代以降の方へ

50代以降でHPV陽性者が**増加**しています



Onuki M et al. Cancer Sci. 2009;100(7):1312-1316

